

## 第3章 グリーンインフラの推進に向けた方向性

### 1 大田区におけるグリーンインフラ推進方針の考え方

様々な地域課題に対応した取組の立案時において、グリーンインフラの多機能性を発揮させる観点から、その導入の可能性を探ることで、複数の地域課題の同時解決を目指すとともに、より幅広い効果を得ることを目指します。

グリーンインフラの多機能性が発揮されるとされる「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の3つの視点及びグリーンインフラに取り組む各主体が目指すべきアウトカム（成果目標）の実現可能性を考慮し、グリーンインフラ推進方針の考え方を以下に示しています。

#### ①自然環境が有する多機能性を十分に発揮させる

グリーンインフラを構成する自然環境（緑地、樹木、植栽、河川、水辺、森林、農地等）は、動植物の生息環境の提供、雨水貯留・浸透による防災・減災、水質浄化、水源涵養（水循環）、植物の蒸発散機能を通じた気温上昇の抑制、良好な景観形成、農作物の生産、土壌の創出・保全など多様な機能を有します。

このため、多様な機能をインフラ整備に反映させ、地域で循環可能な自然資源は地域で循環させることにより、取組自体の効果を最大限に高め、さらに派生的な効果の発現を促していきます。

#### ②分野横断の視点を加味し更なる効果を引き出す

例えば、雨水貯留浸透施設を既存の公園・緑地で整備する際、Well-being（健康、幸福感）にも寄与させるために、どのような雨庭（レインガーデン）にすべきかを、各部局が連携して知恵を絞ることで、ベストプラクティス（最良の取組のあり方）を探ることなどが考えられます。

同様に、児童・生徒の環境教育の場として活用する場合は、教育担当セクションとの連携が想定されるなど、異なる分野の取組を相互に関連づけて検討することで更なる効果を引き出していきます。

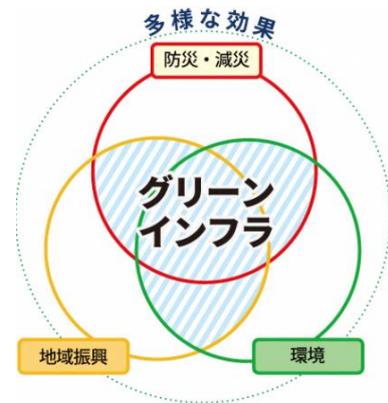
#### ③多様な主体と連携しグリーンインフラを使いこなす

グリーンインフラは、公園・緑地、街路樹、水辺の維持管理や、農作業の体験、環境教育、各種イベント、心身リフレッシュのためのレクリエーションや健康増進等、多様な活動が行われる場となります。

個別の施設にとどまらず、各種民間団体や事業者を含む多様な主体と連携し、エリア全体の資源や空間を使いこなすことで、より効果的・多面的に機能が発揮される可能性があるほか、グリーンインフラが「成長する」又は「育てる」インフラである点に鑑み、多様な主体による継続的参画が不可欠であるため、グリーンインフラへの取組を企画・計画する段階から、多様な主体の連携を促す方策を展開します。

## 2 グリーンインフラ推進方針

グリーンインフラの導入は、「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の3つの視点から多様な効果が期待されます。公共空間、民有空間において自然環境が有する機能を活用したみどり空間を保全・育成・創出していくことで、単独の効果を促すだけでなく、複合的な効果を誘導し、地域が抱える様々な課題解決につなげていきます。



### 防災・減災

- ① 内水氾濫による浸水防止、外水による河川氾濫を抑制する雨水流出抑制を図るための、公園・緑地、道路空間における雨水貯留・浸透機能の確保



- ① 市街地における屋外での快適な活動を行うことのできるみどりを活かした暑熱環境の緩和
- ② 豊かな生態系の保全・育成する拠点となるみどりの確保、拠点となるみどりのネットワーク形成
- ③ 居心地のよい都市空間を形成するみどりの創出



- ① 都市拠点における公民連携によるにぎわい形成に寄与するみどりの創出
- ② 駅周辺をはじめとする空間の魅力や、観光拠点としての風格を高めるみどりの創出による街の付加価値の向上
- ③ 区民にとっての憩いと交流の場となる公民連携による快適なオープンスペースの形成と維持管理



### 3 グリーンインフラの導入によるSDGsへの貢献

2015年に国連において全会一致で採択された「持続可能な開発目標」に基づき、日本では「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」が示され、令和元年12月に一部改定されました。大田区においてもグリーンインフラの導入を通じて、経済・社会・環境の分野やこれらの分野を横断する課題に関してSDGs達成に向けた取組を推進していく必要があります。

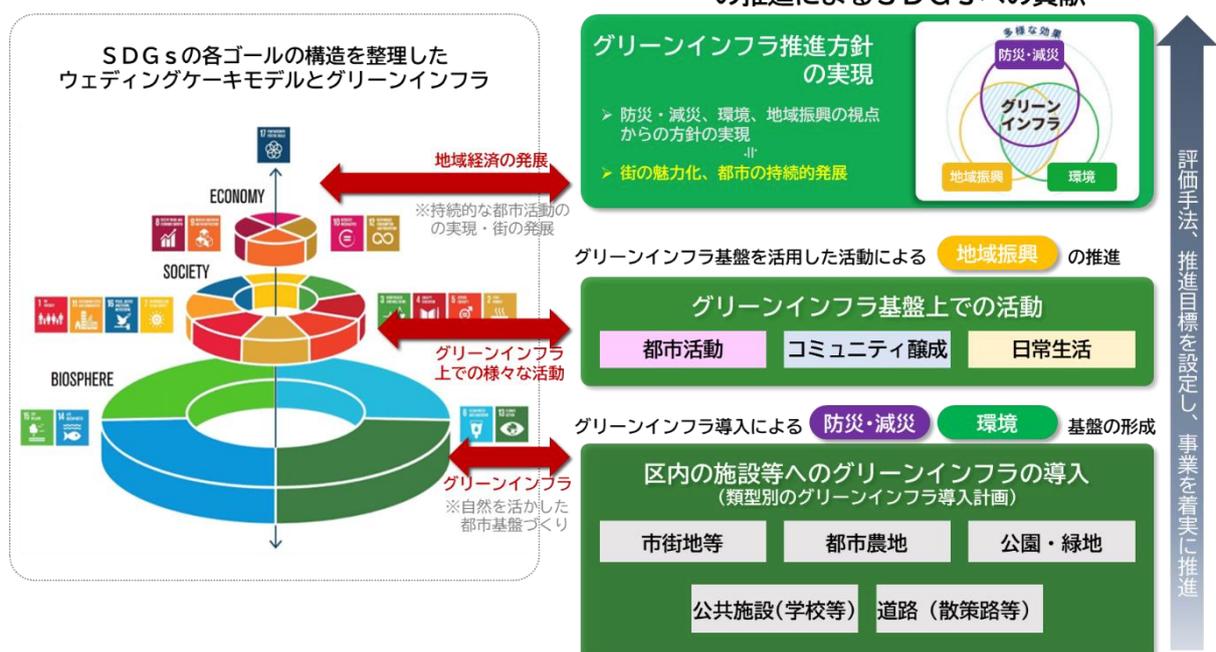
#### (1) SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、2015年9月に開催された国連サミットにおいて採択された「2030 アジェンダ」の中核となる、2030年までに達成すべき国際目標です。SDGsは、先進国を含む国際社会共通の目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な17の目標・169のターゲットで構成されており、各国政府は「誰一人を取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むこととしています。

#### (2) グリーンインフラの導入とSDGsへの貢献

SDGsの各ゴールの構造を整理すると、ウェディングケーキモデルのように表現できます。グリーンインフラと関連づけると、海洋資源・陸上資源の確保、そして気候変動に対応した都市基盤は、いわばグリーンインフラと言えます。このグリーンインフラとして整えられた都市基盤の上で、自然を活かしながら人々による様々な活動が営まれることで、持続的な都市が形成でき、その都市では健康的な生活を確保することもできます。結果として、経済成長と雇用を生み出し、持続可能な消費と生産が行われる街の創出へとつながります。

大田区においてもこれを実現するため、この大田区グリーンインフラ事業計画を推進し、SDGsの目標への貢献を図ります。



[大田区グリーンインフラ事業計画に関連するSDGsのゴール]



目標3 保健

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶グリーンインフラの導入を通じ、身近な生活空間で常にみどりを感じることでできる空間づくりにより、人々のストレス緩和等による健康づくりを支援します。



目標4 教育

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶自然が持つ機能を活かした公園・緑地づくりを通じて、環境分野を中心とした学習の場・機会を創出します。



目標9 インフラ、産業化、イノベーション

強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶自然が持つ機能を活かしたインフラづくりによる強靱な都市づくりと、その自然を活かした地域振興を推進します。



目標11 持続可能な都市

包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶公園や市街地などの雨水浸透・貯留機能を向上させることで、雨水流出を抑制し、内水氾濫を防止します。



目標13 気象変動

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶みどり豊かな公園・緑地、街路樹などの整備により、街の暑熱環境の改善を図り、居心地の良い都市空間を形成します。



目標14 海洋資源

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶海辺においてブルーカーボン生態系を創出し、海辺の豊かな生態の育成、脱炭素化へ貢献します。



目標15 陸上資源

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶市街地、都市農地、公園・緑地、公共施設、道路等、全ての空間でみどりの保全・創出を行い、豊かな生態系を創出します。



目標16 実施手段

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

<グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献>  
 ▶グリーンインフラの導入をきっかけに、区民・事業者・NPO団体・区との協働連携による地域づくりを促進します。